

☆コラム：どなり歌を無くそう☆

「生まれたばかりの赤ちゃんは、ラに近い音の高さで“おぎゃ〜”と泣く」という話を、筆者は中学生の頃に何かの本で目にしました。それ以来、自分が出産の機会を得たら、絶対確かめるぞ！とずっと思っていました。皆さんも機会があれば聴いてみては、といっても、なかなかそう簡単にはいかないですね。

実は、赤ちゃんが「ラ」の音の高さで声を出すという情報は、保育実践の観点からすると重要なことです。年少⇒年中⇒年長さんへと成長しても、「ド」の音は、まだ子どもたちには低すぎてなかなか出しづらいのです。でも、子どもは歌うことが大好きなので、音の高さはお構いなし！大声で表現するしかありません。これが「どなり歌」になってしまう原因です。

「このクラスの子どもたちは大声でどなっているな。きれいな歌声で歌ってほしいな」と思ったら、音の高さを、少し上げてみてください。この方法を実践した埼玉県内の R 園では、大声でどなるだけだった子どもたちの歌声が、数カ月で「天使の声」のように激変しました。保育士が何気なく歌わせているその音の高さが、子どもたちの歌声に適切であるかどうか、ぜひ意識してほしいと思います。



子どもが自然に歌えるのは
♪ミファソラシドレ〜♪の
あたりです。